



くも
雲からどうしてあめ ぷ
雨が降るの

くも ちい みず こおり あつ
雲は、小さな水や氷のつぶの集まり

しろ くも そら
白い雲が空にうかんでいたり、くろ くも そらいちめん
黒い雲が空一面を、おおっていたりするのを見ますが、くも
ちい みず こおり あつ くうきちゅう
は、小さな水や氷のつぶが集まって、空気中にうかんでいるものです。

くも なか ちい こおり みず こおり おお こおり
雲の中の小さな氷のつぶのまわりに、水や氷のつぶがくっついて、だんだん大きな氷の
つぶになっていきます。すると、この氷のつぶはおもく ぐうきちゅう
重くなり、空気中にうかんでいられなくな
ちじょう お
って、地上へ落ちていきます。

あめ ゆき
雨や雪になる

おお こおり お くうき おんど
大きくなった氷のつぶが、落ちてくるとちゅうの、空気の温度のちがいによって、あめ
なったり、ゆき なったりします。落ちてくるとちゅうの、くうき おんど たか こおり
空気の温度が高いと、氷のつぶ
あめ くうき おんど ひく こおり お ゆき
はとけて雨になります。しかし、空気の温度が低いと氷のまま落ちて、雪やあられになり
ます。（監修・村山 貢司）

